

平成21年5月7日

東北森林管理局、東北地方整備局、宮城県

平成20年岩手・宮城内陸地震
亀裂の入った斜面など危険箇所を対象とした
融雪後における調査結果について

東北森林管理局、東北地方整備局及び宮城県（土木部、農林水産部）は、昨年10月に調査を行った、地震で亀裂の入った斜面などの危険箇所について、融雪後の現地確認調査を実施し、その結果を本日、栗原市長に報告しましたのでお知らせします。

（発表記者会）宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

〈問い合わせ先〉

東北森林管理局 宮城北部森林管理署宮城山地災害復旧対策室長 江坂 文寿
住所：栗原市一迫真坂字清水田河前5 電話：0228-52-5380

平成21年5月7日

東北森林管理局、東北地方整備局、宮城県

亀裂の入った斜面など危険箇所を対象とした 融雪後における調査結果

◇調査目的：昨年10月に調査した箇所を対象として、融雪後における亀裂の拡大の有無などを現地確認する。

◇調査箇所：民家後背にある斜面・山地部など11地区33箇所

（一迫川流域 27地区：温湯、切留、小川原、浅布、山内、中村、大向、金沢、鯨森
三迫川流域 6地区：耕英、放森

◇調査結果：昨年10月と比較して、特段の大きな変状は確認されなかった。

今回（前回）

①山腹斜面对策もしくは土石流対策が必要とされた箇所	18箇所(19)
②整地程度の小規模な対策が必要とされた箇所	1箇所(3)
③直ちに対策は必要ないが今後の変状に注意すべきとされた箇所	7箇所(4)
④特に対策を必要としないとされた箇所	7箇所(7)

◇昨年10月の調査との相違：

- ・対策が実施済みの箇所 1箇所（①→③）、1箇所（②→③）、計2箇所
- ・対策が実施中の箇所 3箇所（①→①変更なし）
- ・現況から「今後の変状に注意」へ変更された箇所 1箇所（②→③）

平成20年岩手・宮城内陸地震 亀裂の入った斜面など危険箇所の合同調査結果

- ◇栗原市より11地区33箇所の斜面・山地部に対する調査依頼があった。
(調査対象地区)
 - 一迫川流域27地区：温湯、切留、小川原、浅布、山内、中村、大向、金沢、鯨森
 - 三迫川流域6地区：耕英、放森
- ◇調査結果は以下の内訳となった。
 - ・山腹斜面对策もしくは土石流対策が必要とされた箇所は 19箇所
 - ・整地程度の小規模な対策が必要とされた箇所は 3箇所
 - ・直ちに対策は必要ないが今後の変状に注意すべきとされた箇所は 4箇所
 - ・特に対策を必要としないとされた箇所は 7箇所
- ◇家屋に直接影響が及ぶと考えられる箇所の他に、道路に影響が及ぶ箇所があり通行者への注意喚起が必要と思われる。
- ◇対策が必要でないとした箇所でも、豪雨時や融雪時には、亀裂部周辺は土砂の移動が考えられるので近づかない方がよい。
- ◇区分毎の調査結果概要は以下のとおり

【対策が必要な箇所】

- ・斜面の崩落、落石が発生しそれらが人家や道路に至る危険性がある。
 - ・今後の豪雨や融雪によって崩壊の拡大や崩壊して落ちた土砂が移動する可能性がある。
 - ・対策として、落石防護工、法面の崩壊対策、道路復旧に併せた斜面对策などが必要と思われる。
- 等

【今後の変状に注意が必要な箇所】

- ・亀裂が比較的浅く連続していない。転石が少ない。
 - ・豪雨時に転石が崩落する恐れがあるが、斜面下部が緩勾配である。
 - ・緩傾斜面であるから崩壊の拡大の危険性が少ない。
- 等

【対策が必要でない箇所】

- ・斜面に目立った亀裂等の変状が見つからず安定していた。
 - ・斜面内に転石が見られるが建物まで距離が相当あり、人家への影響が少ないと思われる。
 - ・亀裂が有っても10cm～20cm程度の表層部の亀裂や落差で、連続性がない。
 - ・降雨時には近づかない方がよい。
- 等